



LCV本社に設置された
QCAST®警報ユニットと受信装置

QCAST®受信装置のCATV局情報配信利用について

東海地震の防災対策強化地域である、長野県諏訪地域では、ケーブルテレビ局のエルシーブイ(LCV)が「緊急地震速報」を公共施設等17箇所に配信しています。LCV本社(諏訪市四賀)には明星電気のQCAST®受信装置が設置されており、LCV本社の到達推定震度を自社CATV回線を使用し、音声告知放送システムにより配信を行っています。

8月1日に配信を開始後から現在までの間は体感できる地震の速報はないのですが、配信開始前の7月16日の新潟県中越沖地震の際は、LCVには推定震度3(実測値は震度4)の速報が「41秒前」に受信されました。

10月からの気象庁が配信する情報は、都道府県単位の情報となる見通しのため、地域情報化の一環として局地情報を得る手段として、CATV回線を利用した取り組みが進められてきております。

明星電気のQCAST®受信装置は、様々なお客様のニーズに対応して地震防災ソリューションを提供致します。



QCAST®製品を活用した
ビル内構内放送との連動模式図

「施設管理者向け緊急地震速報利用の手引き」 気象庁において策定される

気象庁は3日、集客施設、学校や民間企業のオフィスなどでの緊急地震速報利用を促すため、「施設管理者向け緊急地震速報利用の手引き」を策定し、発表しました。手引きは「知る」「備える」「訓練する」の3つのStepで取り組む構成となっています。

基本的な緊急地震速報の説明と活用事例として気象庁本庁舎でのモデル実験を挙げ、準備事項として、緊急地震速報活用のマニュアルや行動指針の作成、避難シミュレーションの方法などがそれぞれの施設の利用形態に沿って作成できるよう記載されており、最後に防災訓練への緊急地震速報の具体的な取り込み方法を挙げています。

なお、気象庁本庁舎でのモデル実験で緊急地震速報の受信には、既に明星電気のQCAST®警報ユニットが活用されています。

詳しい内容は「明星トピックス'07年4月号」に掲載しております。合わせてご覧下さい。



「緊急地震速報」ロゴマーク

緊急地震速報一般向け配信へ向け普及活動を実施 「緊急地震速報」ロゴマークも決定

明星電気など緊急地震速報対応機器の製造やサービスの提供、事業に活用している企業などで作る「緊急地震速報利用者協議会」は、10月からの緊急地震速報の一般向け配信開始を控え、緊急地震速報の普及へ向け、積極的に取り組んでいます。正会員企業の明星電気も対応機器の展示や活用事例の紹介を通じ、全国各地で気象庁や自治体と共催して地震防災講演会に参加しています。

なお、「緊急地震速報利用者協議会」は気象庁の外郭団体で、緊急地震速報や気象情報の伝達を実施している「(財)気象業務支援センター」が事務局となっており、8月上旬に、緊急地震速報対応装置や施設を示すロゴマークなどを決め(写真)、今後は、集客施設などへの普及を促進していきます。

FROM UNDERWATER TO OUTERSPACE

明星電気は先端技術を活かし、～水中から宇宙まで～をテーマに

人と社会の豊かな未来づくりを目指す世界の総合環境観測システムメーカーです。